

1. 図書館の被災状況（建物・書架・資料など）

○中央図書館

（建物・設備の被害状況） 壁面タイルの亀裂および一部剥落、壁面等に亀裂発生  
利用者用パソコン5台転倒、事務用パソコン1台破損

（書架の被害状況） 書架の傾斜

（蔵書の被害状況） 蔵書冊数約65万冊中、約30万冊落下

○泉キャンパス図書館

（建物・設備の被害状況） 壁面等に亀裂発生、トイレタイルの剥離、  
利用者用パソコン3台落下

（書架の被害状況） 書架の傾斜

（蔵書の被害状況） 蔵書冊数約30万冊中、約20万冊落下

○多賀城キャンパス図書館

（建物・設備の被害状況） 壁面等に亀裂発生

（書架の被害状況） 保存書架の一部傾斜

（蔵書の被害状況） 蔵書冊数約15万冊中、約1,500冊落下

○破損資料

書架からの落下により破損した資料で、専門業者に修理・製本を依頼したものは現時点で3館あわせて300冊ほどであるが、まだ整理途中で今後追加で修理依頼をする予定にしている。また貸出中の資料で、震災により破損・汚損したものや津波により流失したものは、十数冊程度であった。震災による紛失・破損についての弁済は免除することになっている。

<ご参考>

被災状況写真

<http://www.lib.tohoku-gakuin.ac.jp/page/shinsai20110311.pdf>

被災地域の各施設の被災情報（saveMLAK）

<http://savemlak.jp/>

2. 現時点での状況（開館状況・図書館運営条の制限など）

7月11日からは中央図書館の開館時間（通常 22:00 までを 20:00に短縮）を除きサービス内容も含め震災前の状況にほぼ戻っている。9月20日（後期授業開始）からは、中央図書館の開館時間も通常に戻る予定になっている。

<ご参考>

図書館サービス再開について（添付ファイル）

3. 被害の復旧にかかった期間

（建物・設備の復旧）

ゴールデンウィーク明けまでに壁面タイル等の補修工事を行い、5月9日（授業開始）から再開（館内閲覧のみ）した。建物の亀裂等の補修は引き続き作業が行われ6月末までにほぼ完了している。図書館以外の建物については、現在も修復工事中のものがおり、9月中旬までかかる見通しとなっている。

（書架の復旧）

泉キャンパスの開架書架は、ゴールデンウィーク前に復旧終了。中央図書館閉架書架および泉キャンパスの移動書架については、6月初旬から約1ヶ月かけて修復工事を行った。

(落下資料の復旧)

書架自体に被害がなかった部分については、建物の安全確認がようやくとれた被災2週間後から復旧作業を開始したが、書架が損傷したものについては、落下しなかった資料も修復のため一旦撤去し、復旧した書架から再度資料の戻し作業を行った。7月上旬までには9割以上が復旧している。この間、学生ボランティアおよび saveMLAK からのボランティアの支援をそれぞれ1週間ほど受けている。

4. 被災して苦労したこと

震災直後はライフライン（電気・水道・ガス）や公共交通機関の復旧に相当の時間がかかったことや、ガソリンの供給不足に陥り通勤もままならない状況の中で、大学としては学生・教職員の安否確認が最優先され、当面関係部署への応援を優先し、図書館の復旧作業にはすぐに入れる状況にはなかった。また、ようやく復旧作業を始めて間もない4月7日の余震で、せっかく書架に戻した資料の約半数が再び落下してしまい、二重の苦労を味わうことになってしまった。大震災後は、大きな余震も想定した復旧作業の必要性を感じた。震災発生時は携帯電話・携帯メールが、ほとんど使いものにならないことを改めて実感したが、その後徐々に使えるようになってからは職員間の連絡で携帯メール等が役に立っており、緊急時の連絡先として事前にアドレスを確認しておく必要性はあると感じている。今回の震災に際しては twitter や facebook がかなり役に立ったとの報道があり、今後の連絡手段のひとつとして検討の必要があると思っている。

5. 被災して見えてきた課題・問題点

震災直後に学内に震災復興対策委員会が立ち上げられ、被害状況の把握および復旧工事の対応が行われたが、大学全体を取りまとめているため個々の対応が遅れがちになったことは否めない。そのため現場としてできることを早い段階から実施していくことがのちの復旧のスピードに大きく影響していくと思われる。ただ、現場の独断で行動することにも問題もあり、危機管理の対応を検討するにあたり、学内手続きの簡素化などが必要であると思われる。

ボランティアについては、被災当初は受け入れるだけの（心の）余裕がなく、実際の受入れは、復旧作業がかなり進んだ状況になってからであったため、こちらも危機管理対策上、被災当初から受け皿を準備できる環境があればと思われる。

今回の東日本大震災は以前から予測されていた宮城県沖地震の規模をはるかに超えるものであったため、そのための対策としてとられていた家具の転倒防止金具の設置や書棚への落下防止バーの設置は、ある程度の効果があったとはいえ、完全に防げるものではなかった。書架は梁や壁面にアンカーボルトやL字アングル等で固定されていたが、激しい揺れにより多くの箇所ではボルトやアングルが破断し、書架に大きな歪み（傾斜）が発生してしまった。書架の復旧工事に際しては、ブレス（筋交い）を追加し、補強対策を行っている。今回の震災の経験から今後書架を設置する際の強度の基準が見直されるのではないかとと思われる。

震災発生から4ヶ月が経過し、大学としては震災前の状況に戻りつつあるが、一方で津波や原発の被災地では未だに復旧の目処が立たない状況にあり、東北地方の経済・文化に及ぼす影響は計り知れないものがある。大学を取り巻く環境としても依然厳しい状況が続くものと推測している。

最後になりましたが、今回多くの関係機関から義援金・支援物資等の提供を受け、大変感謝しております。